

近世村落の研究

A Study of the Village Formation in the Edo Period.

門前 博之

KADOMAE Hiroyuki

2003年度の実施報告書に記したごとく、考察の対象としてきた常陸国行方郡永山村では、五人組（この村の場合、十人組）や年貢組など各種の村民の社会的な結合が存在するが、村民の日常的な生活において最も緊密な社会的結合単位となっているのが坪である。現在の永山では坪は機能していないらしく、坪という言葉も死語化しているようだが、かつては原・かんや・東・駒込・ニツヤ・寺代・くほ・西・平・との内・かち内・ミかと等12の坪があった。茨城県猿島町の旧村では坪ごとに寮や行屋があり、それは坪を構成する人々の集会所としての機能を有するとともに、そこには墓所を伴うものが多い。永山村においても坪と墓所とは関係があるのではないか。そのように考え、本年度は永山村の墓所について大まかではあるが、調査を行い、墓所から坪について考察することを試みた。

永山村の墓所は、「ゼンリン住宅地図2000 牛堀町」に記されていない墓所を含め全部で14カ所であった。墓石一つ一つの詳細な調査は行っておらず、また、聞き取り調査もまだ充分行っていないが、それぞれの墓所について、墓石に刻まれた姓からその墓所の使用者を、また、古い墓石の年銘等について記して調査結果を略記すると以下のごとくである。墓所はいずれも台地上に位置しているが、名称は「塚原の墓所」・「五焼木の墓所」・「ハナヤマの墓所」のほかはないようである。以下でも墓所の名称は便宜上小字によって付けることとする。

1. 堀川の墓所（永山跨道橋東）：浅野（2家以上）のほか高木・伊藤両家の墓がある。近世年銘の墓石はないようだ。
2. 塚原の墓所：水貝（9家）・浅野（8家）のほか小松崎・猿田・酒井・川村・大谷・方波見・笹目等の墓がある。方波見家墓石の脇にある寛文12年5月とある板碑型墓塔が最も古いようだ。ほかに宝永2年6月、同4年8月年銘の墓石がある。
3. 長作の墓所：栗林家の一家墓。寛政8年2月の墓

石が最も古い。

4. 外ノ内の墓所：布施（11家）・千野根（11家）・方波見（3家）のほか高橋家の墓がある。方波見家の天保13年・弘化3年・安政2年の年銘が最も古いようだ。
5. ユツ久保の墓所（旧地藏院）：方波見（3家）・天川（2家）のほか浅野家（最近移転）の墓がある。「天保5年10月立之 片波見与治兵衛」とある墓石が最も古いようだ。ここには僧侶の元禄5年5月・享保21年2月年銘の墓もある。
6. 塙の墓所：塙（7家）・加藤（6家）・長岡（6家）・根本（4家）・堀内（4家）・斉藤（4家）のほか栗林・茂木・方波見・斉藤家の墓がある。堀内家の享保3年4月とある墓石が最も古いようだ。大きな墓所だが、それ以前の年銘の墓石は見当たらない。
7. 山中の墓所：越川家の同族墓。墓誌に記された文化11年2月の没年が確認できる年号で最も古い。
8. 房田台の墓所：加藤家の同族墓。墓石に刻まれた年号のうち安永8年3月が最も古い。
9. 外ノ内の墓所：井関家の一家墓だが、金比羅社神主の墓（明治期）もある。井関の墓石年銘には文政10年・天保4年・弘化2年等がある。
10. 東の墓所：吉川（12家）・吉田（3家）・永嶺（3家）・本田（3家）のほか堀内・太田・石村・関口・皆川家の墓がある。吉川家の墓誌に天文3年9月（戒名 以信得入信女）・寛永4年9月（戒名 白露童女）・延宝元年12月（戒名 寒光輝童女）の没年が見られるが、墓石では吉田家の明和2年3月の没年が最も古いようである。
11. 東の墓所（旧長泉院）：水貝（3家）と永峯・朝飛・石村・堀内家のほか、本田・根本・斉藤・坂本・野平・岩井・羽生の墓があるが、斉藤以降の5家は戦後に永山に移ってきたという。墓石も新しい。古い墓石には堀内家の墓石右端部の明暦3年9月・寛文13年3月の年銘のある板碑型墓塔、同じく万治2年5月・寛文7年2月の年銘のある板碑型墓塔のほか、石村家墓所裏側、卵塔の置かれた一区画のうちの延宝4年10月の光背型墓塔、延宝6年11月の板碑型墓塔などがある。
12. 塙の墓所（ハナヤマの墓所）：姥貝（5家）・小谷野（5家）・小熊（1家）・越川（1家）の墓があるが、小谷野（5家）・小熊（1家）の墓石はほとんどが昭和になって建てられたものである。姥貝家の正徳5年8月の墓石が最も古い、小谷野家は姥貝家との親戚、小熊家は小谷野家との親戚関係と

なったので、ここに墓所を設けたという。越川家は姥貝家と親戚関係にないという。越川家の墓石では享保11年9月のものが最も古い。

13. 勘弥台の墓所：薄井栄治家の一家墓。墓誌の年銘は正徳6年11月が最も古い。
14. 五焼木の墓所：永峰（6家）・薄井（5家）・茂木（2家）のほか須藤家の墓があるが、墓所右側の永峰家の墓のなかの承応3年4月・明暦元年9月の年銘のある板碑型連碑、寛文7年11月・延宝8年2月の年銘のある板碑型連碑が最も古い。薄井家の墓所には正徳6年11月～宝暦11年6月の年銘がある墓石がある。

最も古い年銘は東の墓所の吉川家の墓誌にある天文3（1534）年であるが、墓石の年銘では上限は承応3（1654）年で、塚原・東（長泉院跡）・五焼木の墓所には17世紀中頃以降の比較的古くからの墓石が存在している。坪との関係はというと、同じ墓所に墓を有する家は一定の小地域にまとまっているようであり、永山村でも坪という地域による社会的結合のあったことが推測されるが、そのことを明らかにするためには聞き取りを含めもう少し調査が必要である。